令和８年度第１回沼田市総合教育会議会議録

１　開催日
　　令和８年９月１８日（金）

２　場所
　　テラス沼田　庁議室

３　出席者
　　沼田市長　星野　稔
　　教育長　　竹之内　篤
　　教育委員　長谷川　清
　　教育委員　小黒　陽子
　　教育委員　佐藤　広幸
　　事務局　　教育部長 星野 盾、教育総務課長 織田澤 清子、学校教育課長 後藤 一将、生涯学習課長 栗原 満博、文化財保護課長 地野 裕一、スポーツ振興課長 小林 貴行、教育総務課長補佐 真船 啓子

４　開会　午後１時２５分

５　挨拶　星野市長
　　竹之内教育長

６　会議録署名人の指名
　　市長が長谷川清 委員を指名

７　意見交換　　議長：星野市長
（１）沼田市名誉市民等の文化芸術作品について
　　生涯学習課長から、沼田市名誉市民の文化芸術作品保有状況及び沼田市出身・ゆかりの芸術家及び文化人等の過去の作品展実施について説明

◎主な意見
（長谷川委員）
作品展の開催には、どのくらいの費用がかかるのか。

（生涯学習課長）
過去の例では、作品の運搬費、保険料、図録の作成費、作品展と同時に開催する講演会費を含めて、１２０万円程度かかった作品展もある。講演会の講師謝金の額により、安価に抑えられる場合もある。

（長谷川委員）
文化継承は非常に大事なことだと思うので、慎重に行っていただきたい。

（小黒委員）
名誉市民というのは亡くなってからなるものなのか、また自薦・他薦の状況を教えていただきたい。

（生涯学習課長）

沼田市名誉市民条例第２条の第２項で、名誉市民の称号は、故人に対しても追贈することができるとされている。自薦・他薦については、直近の宮川ひろさんは、旧利根村の全区長から要望書が提出され、功績等を調査し決定している。旧沼田市の５名については、条例を制定した昭和６２年以降、名誉市民を選定する手続に入り、平成元年１１月３日に顕彰式典を開催したと聞いている。関係部署で調査し、ふさわしい方を選定している。旧白沢村については、村政施行１００周年が同じ平成元年で、１１月３日の記念式典で２名に称号を贈った。

（小黒委員）
選定に当たっては一定の基準があるのか。

（生涯学習課長）
条例の第１条にあるとおり、広く社会の進展、学術文化の振興に寄与した者又は沼田市発展のため優れた功績があった者となっている。漠然とした基準ではあるが、条例の制定当時、名誉市民や名誉県民として顕彰するというブームもあったようである。条例を制定する以前に話が上がって、条例制定時には県内で６市ほど名誉市民条例を設定したと聞いている。

（教育部長）
名誉市民については秘書課の所管となるが、基準に関しては現実的には基準を設けるのは難しいので、顕彰の方針というような考え方になると思う。

（市長）
市民の方から、名誉市民に推薦したい人がいるという話は秘書課に来ている。沼田出身でいろいろと活躍されている方もいるが、現在も活躍されている方はタイミングもある。

（小黒委員）
展覧会の実施状況について、毎年のように行われていたものが全く行われなくなっている。毎年行う必要もないと思うが、展示会や芸術家や文化人の紹介を定期的に設けた方がいいと思う。

（佐藤委員）
各学校の作品等も歴史資料館に保管されていると思うが、引き継いだ作品を保管していく場所が足りるのか。

（生涯学習課長）
昨年度末で閉校した多那小中学校では寄贈された絵画が数点あった。１点は遺族の方から引き取りたいという話があり学校長から遺族に連絡をした。それ以外の作品については、文化財保護課の職員が多那小中学校へ行き、貴重なものかどうかを確認をした上で、新しい学校に引き継がないものについては基本的には資料館で保管となった。

（佐藤委員）
絵のほかにもいろいろなジャンルのものがあると思うが、地域活性化という意味でも一般公開等で見せることにより、集客の方法に持っていけないかと思う。他地域の博物館等では企画展や常設展がいつもある。歴史資料館ではスペースが限られているが、せっかく県外や市外の人たちがきてくれるのなら、沼田市の企画展や常

設展は面白かったって思えるようなものにできないかと思う。

（生涯学習課長）
　一般公開ということに関しては、所管課と連携して検討することとなっている。予算を確保していくため、意味づけが深いもの、効果があるものに予算をつけていきたいと思っている。

（文化財保護課長）
　現在企画展は年３回開催しているが、１回につき１か月半程度開催している。学校統合により新しい学校に引き継がない物については調査をし、企画展や常設展を行うほか、資料館の入り口のところでロビー展ということで展示をしている。来場者の割合については、およそ県内６割、県外１割、市内３割である。

（市長）
　保管場所というところでは､テラス沼田を改築するときに苦労したと聞いている。２階の歴史資料館の奥が収蔵庫となっているが保管場所は課題だと思う。スペースがあっても、湿度や温度の管理が大事なものとなってくると思う。

（教育部長）
　湿度・温度の管理のほかに、収蔵する場合には燻蒸してから等、資料管理には制約が伴う。テラス沼田では２階に収蔵庫を設置しているが、図書館の５階及び文化財調査センターも絵画等の収蔵場所となっている。

（佐藤委員）
　他地域でやっているようなことを聞いたり、他自治体の状況を参考にできたらいいと思う。情報を収集しながらできる方法を考えていければと思う。

（市長）
　名誉市民の作品は宝であり、大事にしていかなくてはならない。市が取得をして管理できればいいが、サイズであったり劣化を防ぐというところで、すべてに手が届く状況ではないのが現状である。委員さんからもご指摘をいただいた点については、研究材料として教育委員会も考えているところだと思う。歴史資料館の収蔵庫ができたというのは大きな一歩であるが、もう一歩踏み込んだ収蔵庫が必要となると、高額の予算も必要になってくるので無条件で寄附を受けることはできない。市のハード設備の部分で整っていない状況もあり､相談をしながら受ける状況であり、現状は積極的ではないが、ご理解をいただければありがたい。文化というのは沼田にとって大事な側面なので、今後調査をしながら進めていきたいと思う。

（２）歴史資料館の管理及び運営について
　　文化財保護課長から、歴史資料館の常設展示・企画展及び観覧者数の推移等について説明

◎主な意見
（長谷川委員）
　観覧者数について、開館最初の年は１万人を超えていたが、その後は４，０００人前後となっている。年間の観覧者数として４，０００人は多いと感じるのか。

（文化財保護課長）

常設展示をご覧になる方も日常的にいるが、企画展を開催しているとき観覧される方が多い。バス旅行のコースの一部として入れてもらうなどしているが、４，０００人程度となっている。

（長谷川委員）
観覧料も関係しているのか。企画展ごとに金額も変わるのか。

（文化財保護課長）
歴史資料館の観覧料については２２０円であり、２０人以上の団体だと１７０円となる。他の文化財施設を含め３か所を３３０円で観覧できる周遊券や、年間パスポートもある。

（小黒委員）
行政視察等の受入れ状況の推移だが、令和５年度が他の年に比べて多いのは、何か理由があるのか。理由がわかれば今後の視察の増加に役立てることもできるのではないのか。

（教育部長）
視察は新しいところに多く来るが、令和２年～４年はコロナの時期と重なり、視察受入れに影響を及ぼしたと思われる。令和５年度はコロナ明けであり、展示の内容ということではないと思う。

（佐藤委員）
沼田城の建設に関しては、きちんと調査した上で、納得できる説明をしていただきたい。

（文化財保護課長）
沼田城跡の発掘調査については６年間にわたり行い、令和８年２月と７月に調査成果報告会を開催した。沼田城を建てる要望はもちろんあるが、期間も予算もかかるため、現状では調査成果報告会や報告書等で知っていただきたい。

（佐藤委員）
観覧者数については倍増できるといいと思う。１０周年を迎えるに当たり、人を集められる企画があればいいと思う。真田人気はいまだにあると思うので、来た人が楽しめる新しい企画を考えて、集客を増やせたらいいと思う。

（文化財保護課長）
今までやってきた企画展でも沼田城や真田に絡むものは、他の企画展の２～３倍近くの集客がある。沼田城や真田に頼るだけでなく、新たに観覧者が喜びそうな企画を検討したい。

（市長）
歴史資料館の観覧者数については、今の２～３倍ぐらいは見に来てもらいたいというのが率直な感想である。歴史資料館は地域との連携や庁内の関係の部署、民間とも連携をして、最大限の効果を得られるように努力していきたい。

（３）その他

（長谷川委員）
ふるさと納税に力を入れている自治体も多いが、沼田市のふるさと納税の状況について伺いたい。

（市長）
ふるさと納税については、４年前は年間１億１,０００万円程度であった。目標は３億、５億と言っていたが、昨年は３億５，０００万円であり、今年度も現在は順調である。例年９月、１２月が集中して多くなるが、今年度も前年度並みにいけばいいと思う。沼田市のふるさと納税の返礼品で人気があるのは、はちみつ、米、りんご等の農産物である。自治体によっては、５０億円や１００億円のふるさと納税があるが、沼田市はブランド力は低い。歴史と体験を組み合わせて宿泊してもらう等を考えていかないと、５億円、１０億円とはなっていかないのが現状である。

８　その他
【市長から市の課題と克服への取り組みを説明】
市の人口推移であるが、２０５０年に２万７，０００人まで減るとされている。２０７０年には１万６，０００人まで減るという推計が出されているが、推計はもっと落ち込むと思われる。出生数は令和６年度が１６２人で年々減少している。
厳しい財政状況は、構造を変えない限り次の世代がもっと大変になる。現在、市税収入は６３億円～６５億円程度で推移しているが、自主財源を１０億円増やさないと社会インフラの維持・更新ができない。浄水場、ごみ処理、小中学校の統廃合等全部踏まえて、企業誘致をしながら税収も増やすという流れを一緒にしていかない限り、この課題は解決ができない。
横塚産業団地と北部工業団地で拡張整備をしているが、北部工業団地は拡張したいという事業者がおり明るい見通しである。横塚産業団地は、１０月から公募を始めるが、経済効果が上がる企業を呼んでくることが目標である。県外からの転勤で移住してくる人が確実にいるが、住む場所と教育のことが一番に出てくる。子供の教育が将来の沼田市を作るという視点で、高等教育も含めて小中学生の教育をしっかり確保していきたい。
強い財政の実現ということでは、８年後には市税収入を１０億円増やすという目標を達成したい。ふるさと納税については、５億円を目指していきたいと思っている。
沼田市が直面する新たな課題と取り組みだが、今年２月からの物価高騰は止まらない。浄水場の建設事業費が、当初見積額の２倍近くになっている。このまま建設事業を進めてしまうと債務不履行が起きてしまう。企業会計は、上水道も簡易水道も独立採算が原則である。水道料金を見直さなければならないところを市は３０年間料金改定をしてこなかったので、水道料金を適正に上げていかざるを得ない。災害もいつ起きるかわからないところで、今年は日本列島に多くの雨を降らせているが、大雪になるのではないかという恐怖感がある。大雪になったときに、除雪をする力を市役所内部でも持っていなければならないが、建設事業者がいないと雪をかくこともできなくなるので、事業者の育成も大事だということに直面をしている。
０歳から２歳までの保育料の無償化も、直面している課題である。

９　閉会　午後２時５０分